

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社 ハートフルケア		
事業所名	グループホーム ひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	平成26年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年12月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開所して4年8ヶ月が経ちます。ある程度ひなた庵が地域に知られるようになってきました。地域で行う行事(春祭り・夏祭り等)には積極的に参加するように心掛けています。また、地域福祉ボランティアが主催する高齢者向きの催し(サロン)にも参加するようにしています。ひなた庵では他の社会福祉施設にどうしても馴染めない(合わない)要介護者や要支援者が気兼ねなく利用できる様困っている事が解消できる介護保険施設でありたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、市西部の閑静で、かつ歴史のある住宅街に位置している。開所当初に定めた「利用者様が『生きがい』と尊厳のある自立した生活と自己決定ができるように高度な介護技術を活かしながら支援する」旨の理念や職員像を、職員が目付きやすい場所に掲示し、その徹底を図っている。共用部分や利用者の部屋の床などは、常に職員が掃除し清潔さが保たれている。利用者の友人・知人の訪問がある場合は、お茶を出したり、「またお待ちしております」と声を掛けたりして関係が継続するように工夫している。散歩に適した日にはホームの周辺を散歩し、近隣の人達や知人から声を掛けて貰うなど良好な関係となっている。人生の先輩である利用者を尊重する意味からも、「苗字+さん」付けでお呼びし、友達のような言葉遣いにならないように職員間でも注意あっている。さらに、浴室に手すりを増設する意見が職員から出され、それを実現するなど活発な意見交換がなされているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関横にある掲示板にて事業理念を掲げて、実践出来る様に心がけている。	開設時に作成した「利用者が生きがいと尊厳のある自立した生活をできるように支援する」旨の理念を目につく場所に掲示し職員間でも確認している。会議等の時に随時趣旨の徹底と共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域行事などに参加するようにしている。散歩などで外出する機会を多く持ち、地域の商店を利用するなど交流に取り組んでいる。	利用者は、地元の神社の祭りや高齢者が集まるサロンに参加し、会話を楽しんでいる。また、散歩時には同年輩の人達が声を掛けてくれたり、知り合いが頻繁に訪問してくれるなど、日常的に地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービス内容や活動報告などをして推進委員の方々に色々な評価、意見を頂きサービス向上に努力している。	運営推進会議は利用者、家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員の参加により開催している。家族からは外出先の提案等がある。また、消防訓練時に同時に開催し消防の職員から意見を頂いている。	利用に関する率直な意見や要望を聞くために、さらに多くの家族が参加したり、地域との関係を一層深めるために、地域の方が参加する会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者に相談事などあったら連絡を取り、サービスの向上に努めている。	運営推進会議に毎回担当者が出席しており、その場で情報や助言指導を頂いたり、管理者が市に直接出向いて指導を仰ぐなど良好な関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束をしないケアについて考え実行している。	指導的また、友達に話すような言葉遣いにならないように管理者が指導し、職員間でも注意合っている。また、表情や態度で拘束的にならないようにも注意している。玄関の施錠は昼間はしないで、利用者が出られた場合は付いて行きお話しするなどの配慮をしている。さらに、研修会に参加した職員が会議で発表し身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で介護の様子を観察し、虐待防止に努めています。また職員がストレスを感じた時は他の職員がカバーをするようにしている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では利用している入居者はいないが、以前成年後見人制度を利用して入居者の実績があるので、これからも権利擁護について話し合いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約する際は、本人と家族と一緒に説明を聞いて頂き納得して入所している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が来所された時などに、職員から日常の様子など説明している。その他家族からの要望など無いか確認している。	月1~2回、家族が来た時や受診する際に、利用者の状況を話し、その時に要望を聞いている。家族からは好きな食べ物や外出先の要望などが出され、それらの情報を参考に職員間で共有し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや職員会議の時間で運営に関する意見を聞く機会を設けています。	第4木曜日に職員会議が開催されている。利用者一人ひとりのケアに関することや、風呂場入り口に新たに手すりを設置するなどの意見や提案が出され、職員も言い易い会議になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護に対してやりがいを感じ、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に積極的に参加しており、職員のスキルアップに努めています。新人に対して経験のある職員をつけ人材育成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期であるが、研修等で他の施設の職員との交流を図っている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入所前に、在宅や施設訪問して本人の意思要望などを傾聴し不安が軽減されるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも安心して頂く為に、いつでも話を聞けるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという所から説明して納得して頂いてから、担当ケアマネージャーと共に話し合いその時必要としているサービス利用について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で出来る事を見極め、本人に役割を持って頂きお互いに助け合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所の際は、暮らしの状況について伝えながら共感を持って頂けるように努力しています。また家族での外出外食を可能な限り促しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や場所の訪問を歓迎し再訪問しやすい雰囲気づくりをしています。	同級生や地域の知人の訪問があり、職員はお茶を出したり、「また、お待ちしております」と声を掛けたりして継続できるよう配慮している。さらに3ヶ月に1回の移動美容室が来ているが、馴染みの美容院へ行く利用者にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席配置などお互い支え合い楽しく過ごせる関係づくりに努めています。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても連絡があれば相談など対応します。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりの思いや暮らし方について把握するよう努力し、職員会議等で話し合い出来るだけ希望、意向に添える様に本人本位で検討しています。	入居前に家族や本人から好みを聞き、入浴の際にも食べたいものなどの希望を話して貰っている。また、日々の利用者のつぶやきを聞き逃さずにメモして職員間で話し合い共有し意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人・家族の所へ訪問し、生活歴等をリサーチして、本人に合った過ごし方が出来るように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に担当職員を配置し状態の把握をしています。また変化などあった場合は申し送りや連絡ノートなどで情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、より良い暮らしの為に家族(キーパーソン)や必要な関係者と意見を出し合い介護計画を作成している。家族が来所時にそれについて経過など報告している。	利用者ごとに担当職員を決めて、常に日常の様子を記録している。また、モニタリングや職員会議で意見を聞くなど1ヶ月ごとに計画を見直すようにしている。利用者が安定している場合は6ヶ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者に変化あった場合は、すぐに経過記録に記入し記録を残すようしている。書き方については抽象的な言葉は避け、具体的に書いて職員間で情報の共有をしている。また介護計画見直しについても活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に考慮し様々なニーズに迅速に対応するように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日は、施設周辺を散歩等で外出する機会を持ち地域の人達と交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人の希望する医療機関を受診して頂いています。入居者のかかりつけ医と連絡を取り良い関係を築けるよう努力しています。特にない場合は協力提携しているてらうち内科小児科医院の往診にて適切な医療を受けています。	2名の方が市内の認知症専門医を受診し、家族が対応している。その際、日常生活状況や院長への質問を書いたメモを家族に渡して情報の共有を図っている。時には管理者も付き添いをしている。また、7名の方は協力医を利用し、月1回の往診を受診している。歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでの看護職の配置はありませんが同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携を取り対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の病状により入院の場合は、てらうち内科小児科医院を通じて入院先を決めたり、また入院先、家族と連絡を取り合いながら早期退院できるよう努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される場合本人、家族、主治医と話し合いをする機会を持ち終末期に向けた準備が出来る様にしています。	管理者は、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所で看取りを経験している。家族から終末期対応の要望があれば行う方針であり、職員も了解している。また、看取りの指針も出来ており、家族との確認の文書も作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期であるが施設内外の救命講習等の研修に参加し職員の誰もが緊急対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練(火災通報装置)は消防署、防災会社(通報装置指導)等との立ち合いのもと、年二回行っている。この時消火器取り扱いについても講習を行っている。	避難訓練は年2回のうち、1回は運営推進会議を利用し、職員以外の参加もある中、消防署指導のもと実施している。避難場所は前の駐車場になっている。消火器取り扱いは全職員できるようになっている。水や食糧の備蓄は行っていない。	今後、夜間を想定した避難訓練を実施したり、近隣の方々に訓練の際に見学や参加をお願いすることを期待したい。また、水や食糧の備蓄を検討されることに期待したい。

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者を尊重し言葉遣いや羞恥心などに注意しています。	年長者として人格を尊敬し、日常のケアの中で友達のような馴れ馴れしい言葉遣いや、職員の表情などで命令的にならないように注意している。また、必ず「さん」付けで呼んでいる。さらに、トイレへの誘導の言葉には極力配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人の表情や主張を大切にしてい、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望を優先し、個々に合ったペースで日々暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は朝の整容に気を遣い入居者好みの服装でいられように支援しています。また頭髪は地域の店舗を利用したり、移動理容美容室を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕と職員は入居者と一緒に調理、片づけを行っている。また入居者の誕生日には好みのメニューを本人、家族から聞いて献立を立てています。	食事の飯碗や汁碗、箸は、利用者各自のものを用意している。献立は職員がその日の食材の状況により考えている。また、食材の買い出しは利用者と一緒に週2回程度行っている。利用者は職員と一緒に配膳や食事、片付け、お茶入れをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が確認できるように、健康チェック表に記録しています。栄養バランスに関しては献立ノートを作りバランスの良い食事を提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し入居者の口腔内の清潔に努めています。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し排泄パターンを予測したり尿意、便意を思わせるような表情を見逃さず失禁の無いように努力している。	健康チェック表で排泄パターンを把握している。利用者の表情や仕草で、トイレ誘導サイクルを職員間で共有して、トイレでの排泄支援に努めている。夜間はオムツ利用者の介助や自立排泄誘導の声かけ見守り支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者には、日々の水分補給を多めに促し、日中の運動を心がけ腹部に程度の刺激が与えられるよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者には3日に1回の間隔で入浴ができるようにしています。個々の希望などを聞きなるべく入浴が楽しく、リラックスできるように努力しています。	午後3時過ぎから一日3人の入浴介助をしている。1対1のケアの中で食べたいものや好みなどを聴いている。また、季節を感じてもらうように柚子湯や入浴剤を使用しゆったりとした入浴支援をしている。困難な方には気分が変わるような声かけ等の工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が過ごしやすい空間づくりを心掛け居室以外でも安心して休息できるようにしています。また就寝時間は入居者の自由なタイミングで就寝できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬は、薬剤師からの処方箋情報シートを毎回確認し職員が理解するようにしています。また薬の変更があれば必ず連絡ノートや申し送り等で情報の共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が生活を送るうえで役割や趣味(手芸など)など十分に力を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過ごしやすい季節は、施設周辺を散歩またはドライブができるように支援しています。また家族に本人の希望を伝え外出できるようにしている。	暖かい日等に近所に散歩に行き、近隣の方や知り合いとの会話を楽しんでいる。ドライブへ出かけるのを躊躇する利用者には、参加できる様子を見ながら声かけ支援に工夫している。外出先で喜んで貰っている。	



グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者同士の金銭のトラブルにならないように、家族の了解のもとお金を預かり、必要な時に使えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、家族の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の共有空間には、職員と入居者で季節感のある物を作ったり、草花を飾ったりして四季を感じる事のできる快適な空間づくりに努めている。	共用部分や各部屋の床は、職員が常に清掃し様々なものが映るほどの清潔さが保たれている。また、リビング畳の間からふんだんな日差しが入り暖かく良好な環境となっている。壁面を利用しクリスマス模様にするなど利用者が季節感を味わえるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が気軽に過ごせる玄関前のベンチ、腰を掛けたり横になったり出来る畳や、複数で座れるソファなどがあり、思い思いに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの物など持ち込んでもらい、本人好みに居心地の良い空間になるよう努めている。	各部屋の入口には、墨書の名札や色画用紙に利用者が描いたツリーの絵を飾るなどの工夫をしている。ベッドやエアコン等は備付で、寝具、タンス、テレビや家族の写真等利用者の馴染みの物を持ち込み過ごしやすい環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設敷地内では、より安全安心して生活できるように環境整備し自立に向けて努力しています。		